

平成19年度食育推進学校栄養職員研修会を開催

財団法人愛知県学校給食会

【 概 要 】

学校で食育指導にかかる人材に必要な知識の習得を図ることを目的として、愛知県、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会などの後援により平成19年12月25日に愛知県学校給食総合センター（豊明市）において平成19年度食育推進学校栄養職員研修会を開催しました。

学校栄養職員84名の参加があり、講義「食育推進と学校栄養職員の果たす役割について」、講話「愛知県産農産物の生産流通状況について」、パネルディスカッション「学校給食における地域農産物の活用について」の内容で研修を行いました。

【成果や今後の取組等】

この取組は、学校給食における地域農産物の活用に重点を置いて実施し、学校給食の現場で活躍される学校栄養職員の食育指導に参考となりました。

今後はこの成果を基に食育の推進と学校給食の充実・発展を図ります。



講義「食育推進と学校栄養職員の果たす役割について」



パネルディスカッションの様子

食育推進ボランティアの育成

愛 知 県

【 概 要 】

食に関する知識や経験を持ち、食生活や栄養改善の話、伝統料理の実習や農業・漁業の体験活動などを行っていただける人を食育推進ボランティアとして登録し、地域や学校等からの要請に対応できるようにしています。平成19年9月7日に、岡崎市にある県立農業大学校で新たにボランティアとなる人など178名が参加して、最近の食に関する情勢や講演「心と知恵で育てる足元からの食育」の内容で研修しました。また、平成20年2月14日には、同大学校で管理栄養士、食生活改善推進員、農業者、農協職員及び生協職員の5名が100名の参加者に対してそれぞれの活動報告を行い、それを基に意見交換を行いました。

なお、県では、必要に応じて啓発資料を配付するなど、食育推進ボランティアの日常活動の支援も行いました。

【成果や今後の取組等】

ボランティアの登録数は、前年度から56名増加し、平成19年は437名になりました。県食育推進課へのあっせん依頼だけでも8件から14件に増加しており、引き続き食育推進ボランティアの育成と活動の支援を進めます。



研修会の様子

「輝きネット・あいちの技人」の認定

農村輝きネット・あいち

【 概 要 】

平成 15 年度からこれまでのグループ活動で培った、優れた農業及び暮らしの技術を持ち、伝承できるグループ員を「輝きネット・あいちの技人」として認定しています。平成 19 年 8 月 28 日に岡崎市にある県立農業大学校で、新たに 25 名を認定しました。また、先輩の活躍の様子を聞く研修会も行いました。



平成 19 年度新規認定者のみなさん

○ 技人の技術の種類

- (1) 伝統食・郷土食・行事食等農家の食事に関する技術
- (2) 農畜産物の加工に関する技術
- (3) 手工芸に関する技術（わら細工、竹細工、炭焼き等）
- (4) 農業生産及び作業方法技術
- (5) その他、農業・農村の暮らしを向上する技術



研修会の様子

【成果や今後の対応等】

認定者数は 135 名になり、味噌づくりやしめ縄づくりなどを地域住民に伝えたり、小学校等で子どもたちに伝統料理を教えるなど幅広い活躍をしています。今後も、技人の活躍を期待し、認定していきます。

「みんなで進めよう あいちの食育県民大会」の開催

愛知県食育推進会議、愛知県、愛知県教育委員会

【概要】

県民や関係者が一堂に集まって食育の推進についての気運を高めるため、平成19年6月7日に名古屋市にある愛知芸術文化センターで「みんなで進めよう あいちの食育県民大会」を開催しました。公募した505人の県民をはじめ2,158名が参加しました。食育標語優秀作品の表彰、基調報告、大会アピールの採択、名古屋市立第一幼稚園の園児らによる歌と踊り、女優でエッセイストの星野知子氏の講演を行いました。



主催者あいさつ（神田知事）

大会アピール

- ◎ 食の大切さを知り、食についての理解を深めよう
- ◎ 体、心、環境を大切にする健全な食生活を実践しよう
- ◎ 子どもや周りの人に食の大切さを伝えよう

【成果や今後の対応等】

アンケートでは、大会について「良かった」「概ね良かった」という回答が84.3%であり、プランの初年度として本県における食育の推進について気運を高めることができました。

地域における食と農の交流フォーラムの開催

愛知県

【概要】

県農林水産事務所が主体となって、食育に取り組む関係者や地域住民が農業者と交流し、各地域の特色を活かした食育を推進していくことを促すため、市町村等との協力により県内の7地域で「食と農の交流フォーラム」を開催し、合わせて約6,000人が参加しました。

地域	開催日	開催地	概要
尾張	19.9.30	北名古屋市	講演、食育劇等
海部	19.11.30	津島市	講演、特産物レシピ等
知多	19.8.27	東海市	講演、トマト料理等
西三河	19.12.8	西尾市	講演、エプロンシアター等
豊田加茂	19.11.19	豊田市	講演、パネルディスカッション等
新城設楽	19.10.27	新城市	郷土料理体験等
東三河	20.1.19	豊橋市	講演、事例発表等



尾張地区の様子



知多地区の様子

【成果や今後の取組等】

地域における食育への関心を高めることにつながり、今後も地産地消など地域に根ざした食育がさらに活発となるように働きかけていきます。

Webサイト「食育ネットあいち」の開設

愛知県

【概要】

愛知県は、インターネット上に食育に関する総合情報サイト「食育ネットあいち」を平成19年12月26日に開設しました。このサイトは、「食育って何?」、「食育お役立ち情報」、「進めています!あいちの食育」で構成しており、開設後1か月間で約7,000件のアクセスがありました。

アドレス

<http://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/index.html>

【成果や今後の取組等】

情報を適宜更新し、内容の充実を図っていきます。



JAグループ愛知:未来をひらく「食と農」の活動

愛知県農業協同組合中央会

【概要】

JAグループでは「食農教育」を展開しています。「食農教育」とは、食べ方や食生活のあり方だけでなく、食料とそれを生産する農業の役割を理解・体験することで、食の大切さ、食を支える農の役割、地域の食文化、いのちと健康の尊さなどに対する理解を広げ深めていこうという活動です。

このため、県内のJAでは朝市やJA直売所などで地域の新鮮な農産物を提供する「地産地消」活動、小中学校などで地域の食材を使い、先人の知恵を学ぶ「郷土料理教室」の開催、米、トウモロコシ、伝統野菜などの栽培や収穫の喜びを味わう「体験農業学習」の実施。さらには、地元農産物の学校給食への供給など、様々な特色ある活動に取り組んでいます。

また、JA愛知中央会では全国屈指の愛知県の農業について学習してもらえるよう、毎年「愛知の農業」誌を作成し、県内の小学5年生全員に配布しています。このほか、イベントなどの機会を利用して、家庭で簡単に農作物の栽培体験ができる「バケツ稲作セット」を平成19年は1万5千セット配布しました。

【成果や今後の対応等】

今後、食と農の大切さについての理解を深めてもらう活動をさらに推し進めるために、JAの食農活動マスタープランとして「JA食農プラン」の策定・実践を県内のJAに呼びかけるとともに、食と農の体験・教育・交流や地場産学校給食・地産地消などの食農教育活動の拡充を図ります。

食育標語の募集と表彰

愛知県

【概要】

平成19年2月28日から3月31日の間に県民から食育標語を募集しました。その結果、子どもの部・一般の部をあわせて24,923点の応募があり、その中から6点を表彰作品として選定し、6月7日の「みんなで進めよう あいちの食育県民大会」で表彰式を行いました。表彰作品は、県のホームページに掲載し、ちらしなどの啓発資料への印刷や食育標語百選を作成・配布するなどして食育の普及に活用しました。



表彰式の様子

◎表彰作品

子どもの部

朝ごはん 毎日食べて 元気な子	澤田 有里紗さん	(犬山市)
「おいしいね」 みんなで食べれば ほら笑顔	安田 遥さん	(清須市)
いただきます 感謝の気持ち 忘れずに	早川 諒さん	(安城市)

一般の部

健康と 豊かな心 食にあり	近藤 美和子さん	(名古屋市)
豊かなる あいちの恵み 食卓で	櫻井 智子さん	(春日町)
食育で いきいきライフ エコライフ	野寄 則彦さん	(安城市)

【成果や今後の取組等】

標語の募集を通して、県民が食育への関心を高めることに効果的でした。今後は表彰作品を中心に食育標語を活用するとともに、他の県民参加型の企画を実施していきます。

食の安全・安心に関する調査の実施

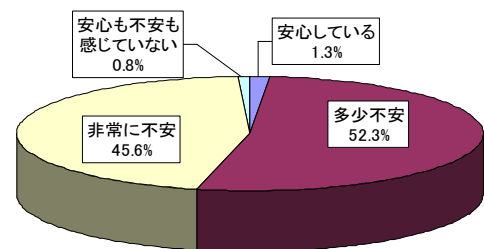
愛知県

平成19年度は、食の安全・安心を脅かすニュースが、新聞やテレビで連日のように報道されました。食肉加工卸会社が意図的に牛挽肉へ異種肉を混入したり、有名菓子の製造業者が賞味期限の改ざんをしたといった報道は多くの消費者を不安にさせました。また、外国から輸入された食品の安全性についても様々な問題点が指摘されました。

このため、平成19年8月に消費生活モニター400名（回答数：371名）の方々を対象に、食の安全・安心に関する意識や意見・要望等についてアンケート調査を実施しました。

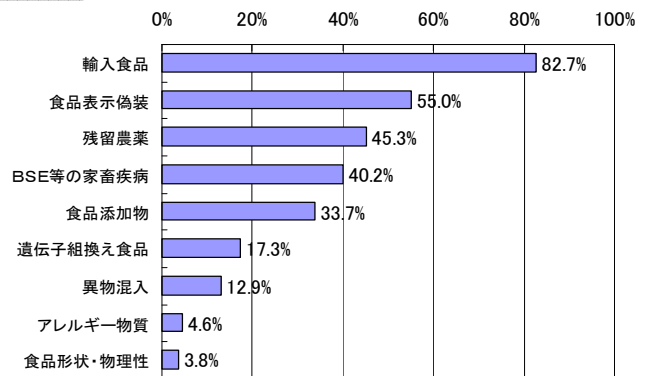
約98%の人が何らかの不安を感じている

食の安全・安心については、「非常に不安を感じている(45.6%)」と「多少不安を感じている(52.3%)」を合わせて97.9%の人が何らかの不安を感じているとの結果でした。一方、「安心している」との回答はわずか1.3%でした。



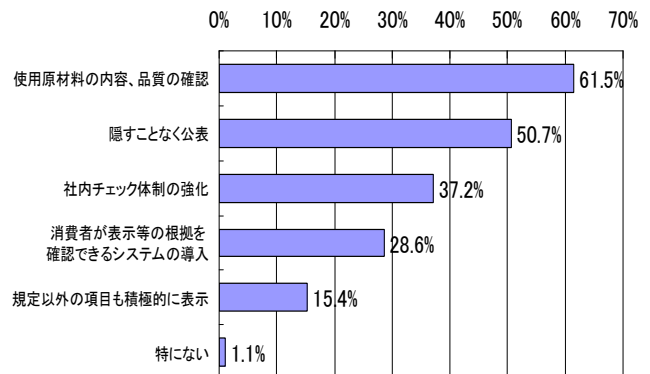
輸入食品に対する不安がトップ

食品の安全に関して、特に不安を感じている事柄としては、「輸入食品の安全性(82.7%)」と回答した人が最も多く、「食品表示の偽装(55.0%)」、「農産物の残留農薬(45.3%)」「BSE等の家畜疾病(40.2%)」などを大きく上回る結果となりました。



使用する原材料の内容や品質は責任を持って確認を

食品の安全性を確保するため事業者に行ってほしいこととして、「使用する原材料については、その内容や品質について責任を持って確認してほしい」を選択した人の割合が61.5%、「不適正な事実が発見された場合は、隠すことなく公表してほしい」が50.7%といずれも高い選択率となりました。



「みんなで楽しくいただきます！～食育シンポジウム～」の開催

豊田市

豊田市では、市の食育推進計画策定を記念して「みんなで楽しくいただきます！～食育シンポジウム～」を3月16日（日）に豊田市民文化会館で開催しました。

食育ジャーナリストの砂田登志子氏による基調講演では、小さい子どもさんを持つお母さんたちが熱心に聞き入っていました。

また、シンポジウムでは、豊田市で食育実践活動に取り組んでいる方たちから、それぞれの活動内容が紹介され、最後にコーディネーターの大羽和子中部大学教授が、「食育は食育推進会議、行政、食育応援し隊と市民が共働して推進していくことが大切であり、みなさんが今日家庭へ帰って行動することで食育が面として広がるよう食育のフロントランナーとして活動してください。」と呼びかけました。



「あいち食育サポート企業団」が結成されました！

愛知県発祥の食品関連企業8社が自主的に集まり、平成19年10月22日に「あいち食育サポート企業団」を結成され、代表者が愛知県公館を訪れて愛知県食育推進会議の会長である知事に団の結成を報告しました。

この企業団は、事務局をユニー株式会社に置き、健全な食生活の実現と豊かで活力ある社会づくりに向けて、バランスのとれた食生活や地産地消などについて、企業団が独自に店頭でのキャンペーン、手作り体験や工場体験ツアーなどの活動を行っていく予定です。

また、県などとも連携して食育を推進することとしています。

知事は、「愛知県は、食料品の製造出荷額が全国第2位であり、消費者に一番近い立場のみなさんがPRしていただければ大変効果が期待できる。」と話しました。

○企業団を結成した8社（五十音順）

イチビキ(株)、カゴメ(株)、カネハツ食品(株)、敷島製パン(株)、(株)ポッカコーポレーション、マルサンアイ(株)、(株)ミツカン、ユニー(株)



知事と握手するユニー（株）の佐々木孝治会長（右）とカゴメ（株）の高田卯基取締役（左）



第51回愛知県統計グラフコンクール入賞作品から

愛知県統計協会の主催で第51回愛知県統計グラフコンクールが開催され、小学生や中学生の行った調査の内容が統計グラフとしてきれいにまとめられました。子どもたちが様々なテーマを取り上げた中で、食べることや食べ物にかかわって、体の健康や農作物の栽培、家庭から出るゴミなどに関心を持ち調査を行った作品も多くありました。その一部を紹介します。



*愛知県統計グラフコンクールは統計に対する理解を深め、統計をグラフで表現する技術の向上・普及を図ることを目的に行われるもので、自由課題で募集されます。詳細は統計課ホームページをご覧ください。(http://www.pref.aichi.jp/toukei/)